



## 1 理事会開催 —26 学年度は 10 人減の 940 人採用—

6月10日、第47回理事会が都内会場にて開催され、全国から理事29人、監事3人が出席しました。開会に先駆け、故小沢一彦名誉理事長の追悼映像の上映と、黙とうを行いました。

今回の理事会では、議長の若林紀男理事長の進行の下、主な議案として、2026 学年度奨学生採用数、2026 学年度募集要項、2025 年度事業計

画案、資産運用方針案、収支予算案などが審議されました。これらの議案は各担当理事、事務局長からの提案説明を経て、すべて原案通り承認されました。これにより、2026 学年度の奨学生採用数は、前年度から10人減少の940人(枠)とすることなどが決定しました。

## 2 よねやま親善大使セレモニー開催 「かけがえのない経験」

6月10日理事会開催前、この6月末で退任となる第5代よねやま親善大使3人の退任式が行われました。退任記念品の感謝の盾が贈られ、「かけがえのない体験をさせてもらった」「活動期間中に得たつながりや学びをこれから還元していきたい」など、それぞれの大使が2年に及ぶ活動や支援への感謝を述べました。精力的かつ柔軟に活動していただき、心より感謝申し上げます。

続いて、第6代よねやま親善大使3人の任命式が行われ、全国各地の理事が見守るなか、



若林理事長から委嘱状が手渡され、それぞれが活動への抱負を述べました。

その後は、事務局会議室にて第5代・第6代よねやま親善大使合同オリエンテーションを開催。親善大使活動を行う上でのアドバイスや体験談について情報交換を行いました。

7月から、第6代よねやま親善大使の3人が2年の任期で活動を開始します。地区の米山関連行事やクラブ例会などに、ぜひお呼びください。招へいをご希望の場合は、派遣申請書の提出が必要となるため、米山奨学会事務局広報担当(長尾)までご連絡ください。



## 3 寄付金速報 今年度の寄付実績は 6 月 30 日(月)まで

前年同期比

-7.1%

普 -1.3% 特 -9.6%

5月末までの寄付金は前年同期と比べて7.1%減(普通寄付金:1.3%減、特別寄付金:9.6%減)、約9,380万円の減少となりました。5月は18

のクラブから創立記念寄付として、特別寄付合計295万円のご寄付をいただきました。

今年度のご寄付は 6月30日(月)までに着金するよう、余裕をもってご送金をお願いいたします。今年度も残り2週間余りとなりましたが、引き続き当事業へご協力を賜りますようお願いいたします。

## 4 全国学友会代表者セミナー開催

国内外の米山学友会代表者を対象としたセミナーが5月24日、ハイブリッド形式で開催されました。学友



会をさらに発展させるためにヒントを得てもらうことを目的に開催された今回、会場には学友会代表者31人が集まり、海外学友会の7人がオンラインで参加しました。また、初の試みとして、各地区の米山奨学委員にも参加を呼びかけ、33人が出席。総勢70人を超えました。

午前の部では、若林紀男理事長、学友委員会の石黒秀司委員長からそれぞれ挨拶をいただいた後、事務局から標準会則の見直し等について説明を行いました。次に、ベトナム南学友会から奉仕活動について事例発表が行われた後、台湾学友会から届いた第4回米山学友による世界

大会「愛 in 台湾」のメッセージ映像を上映。続いて、米山奨学会からの提案として、10月の米山月間に共通テーマで奉仕活動を行うことに関して、説明が行われました。

午後

の部では第2610地区と第2620地区学友会から活動の工夫について事例発表が行われた後、学友会代表者は5グループに分かれ、グループディスカッションを実施。別室で開かれた地区米山委員対象のセッションでは、学友会との連携強化について、3地区の事例紹介を交えながら意見交換が行われました。大久保章宏学友担当理事からの講評後、交流会が開催され、地区を越えた学友会の輪が広がる機会となりました。

## 5 20年続く米山学友とカウンセラーの縁

国際ロータリー第2760地区岡崎東RCの山内隆一会員は今から約20年前、グエン タイ ズィさん（2005-07／岡崎東RC）と出会い、カウンセラーとして日々を共にしました。当時からタイさんは誰と



山内会員(中央)とタイさん(左)夫妻

でも気さくに交流ができる好青年で、一番の思い出は2005年、愛知万博の会場でクラブ例会を行った時のこと。ベトナム館に入場し、とても喜んでいてタイさんの姿が印象に残っているそうです。

帰国後もメールでのやり取りを絶やすことなく続け、現在は阪和ベトナム株式会社の鉄鋼部

署でゼネラルマネージャーとして勤務するタイさんが、今年の4月に出張で来日した際に岡崎で再会。山内会員の親族も含め盛大に歓迎しました。

奨学期間を終了する時にメールでのやり取りを続け

ていこうと約束し、現在まで18年間二人の交流が続いていることについて、山内会員は「自ら会いに行くことも大切」とし、カウンセラーを務める上で大切なことは「海外から来日して不安や悩みを抱えている若者に対する心のケアや、アドバイスが適切にできるかどうか」だと述べられています。

### 米山学友と再会

### ホームカミング制度をご活用ください

活躍する米山学友を各地区が毎年度上限2人までを選び、地区の行事に招待して、地区内のロータリアンへその活躍ぶりを披露していただく制度です。地区が誇る学友を一人でも多く見出し、米山奨学事業の意義を広めるとともに、学友との絆を深める制度としてご活用ください。

詳細はこちら

